

平成29年10月26日(木曜日) 日刊産業新聞に当社、記事が掲載されました。

日本鑄造

中国最大手と戦略的提携

鑄鉄水平連続鑄造材で

日本鑄造(本社〓神奈川県川崎市、鷺尾勝社長)は、中国の鑄物大手、邯鄲市恒工冶金機械(以下、邯鄲)との間で、鑄鉄水平連続鑄造材「マイティバー」に関する戦略的パートナーシップ契約を締結した。従来から生産能力補完のため、邯鄲に一部製造を委託してきたが、製造委託製品の日本市場での販売拡大に注力していくとともに、同製品に関する技術支援を行う。

邯鄲は鑄鉄水平連続鑄造材の中国最大手。鑄造材の機械加工に強

みを持ち、油圧機器やコンプレッサー、トランスミッション向けなどに年間約10万トを生産している。

両社は戦略的パートナーシップを通じ、日本鑄造側の技術力と邯鄲の生産力およびそれぞれの営業基盤の強みを生かし、グローバルな事業発展につなげていく。

マイティバーは、中

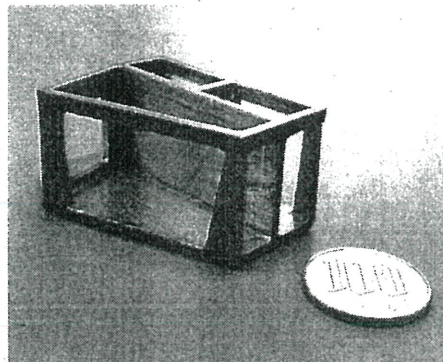
心部まで均質なため、砂型鑄造材にくらべて内部欠陥がほとんどなく、耐圧性をはじめすぐれた機械的強度が得られる。組織が緻密で硬度が均一なため切削性がきわめて良好で、部品に求められる寸法精度をしっかりと達成できる。このため、工作機械部品や産業機械部品、油圧空圧機械部品、紡織機械部品、電

気機器部品、輸送用機器部品、金型など幅広い分野に使用されている。

熱膨張ゼロ合金で 3D積層造形成功 短納期化など対応実現

日本鑄造は25日、熱膨張ゼロ合金「LEX-ZERO」を使用し、3Dプリンターによる

3Dプリンターで製造した積層造形品



積層造形に成功したと発表した。従来の鑄鋼品やブロック材に加えて3D積層品の供給が可能となったことで、各種分野の構造材や部品として幅広い利用が見込めるとして、本格的な販売開始に向けて開発を進める。

先端産業をはじめとする各種産業において、装置や機器類に対する高精度化の要求が急速に高まる中、同社の「LEXシリーズ」は、材料の熱変形に起因する精度誤差を解消できることで、多くの実績を持つ。「LEX-ZERO」は摂氏0度―100度の温度領域で熱膨張がほとんどない特性を持つ。グラムサイズ(超小物)からトンスサイズ(超大物)までの鑄鋼品(受注品)の製造およびブロック材(在庫品)で対応しているが、鑄物では、形状制限や短納期化などの問題もあった。今回3D造形が可能となったことで、複雑な内部構造や、薄肉かつ軽量化も可能で、製品開発サイクルの短縮や鑄型模型不要などのコスト低減にも寄与しているとしている。

は、材料の熱変形に起因する精度誤差を解消できることで、多くの実績を持つ。「LEX-ZERO」は摂氏0度―100度の温度領域で熱膨張がほとんどない特性を持つ。グラムサイズ(超小物)からトンスサイズ(超大物)までの鑄鋼品(受注品)の製造およびブロック材(在庫品)で対応しているが、鑄物では、形状制限や短納期化などの問題もあった。今回3D造形が可能となったことで、複雑な内部構造や、薄肉かつ軽量化も可能で、製品開発サイクルの短縮や鑄型模型不要などのコスト低減にも寄与しているとしている。